東アジア共同体政策シンポジウム

主催；東アジア共同体議員連盟・国際アジア共同体学会

２０１０年１１月１７日（水）15；50受付開始。

衆議院議員会館国際会議場（第１議員会館地下1階）

第１部「東アジア共同体と日本外交；日中対立をどう克服するか」記念挨拶；16;00～16;10

鳩山由紀夫（前首相、東アジア共同体議員連盟会長）

開会挨拶；16：10～16：20

西原春夫（早稲田大学元総長、国際アジア共同体学会特別顧問）

山口壮（東アジア共同体議員連盟事務局長,衆議院議員）

　　　　　総合進行役；林敏潔（東京学芸大学特任准教授）

司会；中川十郎（日大大学院兼任講師）羽場久美子（青山学院大教授）

基調報告；16：20～16:40

天児慧（早稲田大学教授）「日中衝突を回避克服する外交」

パネル討議；16:40-17:40

後藤康浩（日本経済新聞編集委員）「東シナ海ガス田開発を進める」

金子秀俊（毎日新聞編集委員）「中南海から読み解く」

河合正弘（アジア開発銀行研究所長）「いまこそＡＣＵを」

鈴木宣弘（東大教授）「ＴＰＰと東アジアＥＰＡ/ＦＴＡという戦略」

議員連盟側から数名。

総括；進藤榮一（国際アジア共同体学会代表）17：40～17：45

第２部　交流懇親会　　17：45～18；45

衆議院第1議員会館ホール（国際会議場隣）

開会挨拶；鳩山由紀夫前首相

谷口誠(元国連大使、学会顧問)

船橋洋一（朝日新聞主筆、学会顧問）

　　　ミヒェル・クーデンホフ・カレルギー

協力機関予定；主要新聞社、メディア各社。

入場方法；当日１５時５０分頃まで第１議員会館入口で入場受付手続き下さい。

入場料無料。院生会員も参加できます。

主催者ごあいさつ

鳩山政権発足以来、日本外交の近未来像として東アジア共同体構築が、一躍内外の脚光を浴び、尖閣問題で先鋭化する日中対立の中、逆にその重要性がいっそう再認識され始めています。日米同盟の枢要性はいうに及びませんが、冷戦終結２０年後、国際構造の巨大な変化の中で私たち今、興隆する中国をはじめ、アジアとどう共生し、国益の最大化によって新成長戦略をいかにつくり、新しいアジアと世界を構築するのか、21世紀日本外交の新しいかたちを、内外から求められ続けています。

この度「東アジア共同体議員連盟」発出を機に同議連は、トラック２政策研究提言機関として７年の歴史を持つ「国際アジア共同体学会」とともに、アジア地域統合を視野に日中関係打開の道を探るべく、来たる１１月２１日（水）午後４時より衆議院国際会議場にて、別紙ご案内のように共同シンポジウムを開催するに至りました。第一線の学者、ジャーナリストと議連所属議員との活発な討議によって２１世紀日本外交とアジア地域協力の道を明らかにします。

上記開催日は、欧州統合の父クーデンホフ・カレルギー伯爵生誕１１５周年に当ります。青山光子を母とし欧州統合に生涯を捧げた歴史的偉業は、かねて鳩山前首相が、伯爵の次の言葉とともに私たちに想起させています。「すべての偉大な歴史的出来事は、ユートピアとして始まり現実として終わった。一つの考えがユートピアにとどまるのか、現実となるのかは、それを信じる人間の数と実行力にかかっている」。

今回、あえてシンポジウムを上記日程に設定し、新しい政治外交と経済の流れをつくるべく政学共同シンポジウムに奮って参加下さるよう呼び掛ける所以です。

東アジア共同体議員連盟事務局長　山口壮

国際アジア共同体学会代表　進藤榮一